

肝癌破裂で発症し、TAE後切除した肝癌の一例

咲 間 裕 之

【患者】 75y.o,女性

【現病歴】 '05. 12. 13腹部膨満感・腹痛が出現した。症状が持続するため同日当院CCUに搬送された。CCUにて処置中、徐々にSpO₂の低下と意識レベルの低下を認めるようになった。

CTを撮影した所、腹腔内出血と肝細胞癌破裂の所見を認めたため、当科受診となった。

【家族歴】 特記事項無し

【既往歴】 単径ヘルニア(1998)

【現 症】 BT35.4℃, BP88/50mmHg, HR90/min, RR24/min. SpO₂95% (nasal O₂ 2L)
意識清明、顔面蒼白、冷汗あり、左肩～胸部に疼痛あり

【入院後経過】

- ・IVR入室時BP44/32mmHgまで低下。
- ・腹水中のHb6.0g/dl, 合計2600ml流出。
- ・12/13 20:50 IVR室入室. 12/14 23:00までにMAP合計16単位、FFP 8単位(退院までにはFFP合計14単位)使用した。

・TAE終了後、徐々に呼吸・循環動態共に安定化していった。

・臨床所見：cStageIV.a (S₃:T4NOMO)

・Liver damage A

・EV(-)

・HBV(-)、HCV(-)

左葉切除術施行目的で、'05. 12. 28当院外科へ転科

【退院後経過】

・現在当科外来にて経口化学療法(UFT)を実施しながらfollow up中。

・残肝に明らかな再発と思われる所見を認めない。

【結語】

・肝細胞癌破裂を起こした症例は、比較的予後が悪い。しかしTAEによって一時止血を行い、全身状態の改善後に二次的肝切除術を行えば、比較的良好な予後を得られる事ができる。

・今回は肝細胞癌破裂を起こした患者に、緊急TAEを行うことによって救命し得た症例を経験する事ができた。